

安達太良山・沼の平火口における地磁気全磁力変化*

Variation of Geomagnetic Total Intensity at Numanotaira Crater, Adataro Volcano

気象庁地磁気観測所

気象庁気象研究所

Kakioka Magnetic Observatory, JMA

Meteorological Research Institute, JMA

気象庁では、安達太良山沼の平とその周辺において1997年7月から全磁力繰り返し観測を、1998年6月から全磁力連続観測を、それぞれ実施している¹⁾。

第1図に沼の平火口周辺における全磁力繰り返し観測点及び連続観測点の配置を示す。No. 1~No. 17が繰り返し観測点、C2、N、N2が連続観測点である。

第2図に1998年7月から2003年12月までの連続観測結果を示す。ここでは各観測点と参照点との差の日平均値を示している。

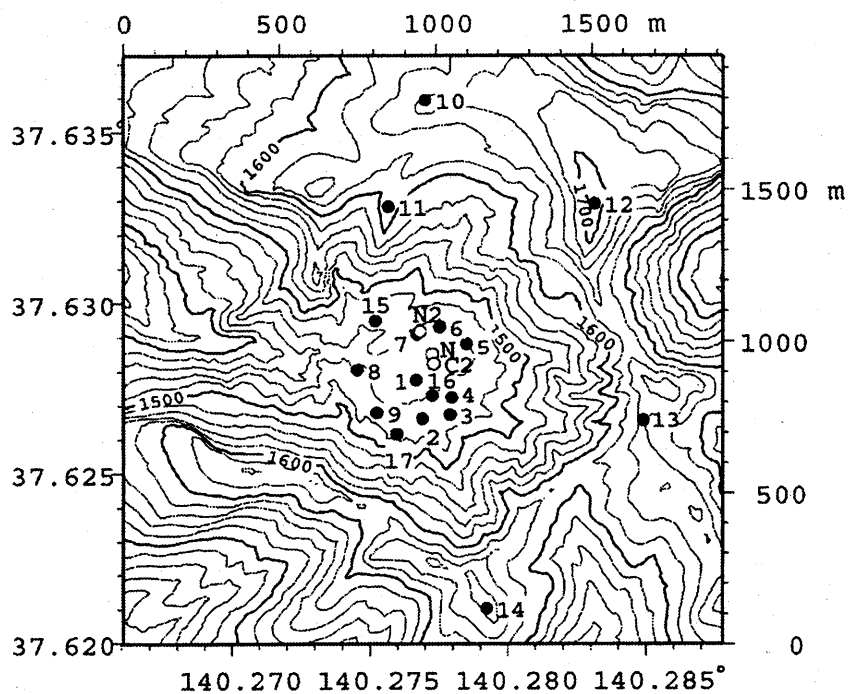
沼の平火口中央付近のC2では、1999年の観測開始以来、全磁力の顕著な増加が続いていたが、2003年6月頃より横ばいとなっている。同様の傾向が80m程北側に位置するN点にもみられる。火口北部のN2では、2001年からの減少傾向が継続している。

これらの変化傾向は、前回の予知連絡会で示した結果²⁾とほぼ同じであることから、静穏な火山活動が継続していると推定される。

参 考 文 献

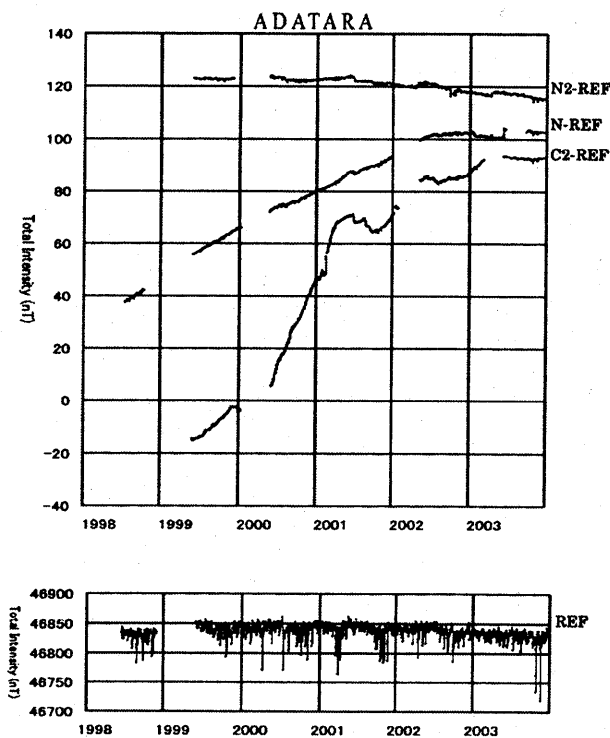
- 1) 気象研究所、地磁気観測所、気象庁火山課 (1999) : 安達太良山・沼の平火口の地磁気変化, 火山噴火予知連絡会会報, 72, 64 - 67.
- 2) 地磁気観測所、気象研究所、仙台管区气象台 (2004) : 安達太良山の沼の平火口の地磁気変化, 火山噴火予知連絡会会報, 86, 23-26.

* Received 17 March, 2004



第1図 全磁力繰り返し観測点(●)と連続観測点(○)の配置図。なお地図は国土地理院発行の「数値地図10mメッシュ(火山標高)」を使用した(承認番号:平14総使第330号)。

Fig.1 Location of repeat observation points(●) and continuous observation points(○) of the geomagnetic total intensity.



第2図 参照点を基準とした各観測点の全磁力変化(上図)と参照点の全磁力変化(下図)。

Fig.2 Variations of the geomagnetic total intensity at the continuous observation points referred to the reference point (top). Variation at the reference point is also shown (bottom).